

◆ 新型コロナアンケート第1弾「自粛期間中の生活について」回答 ◆

2020年8月

NPO 法人全国 LD 親の会

幼稚園・保育園

- ・ コロナになった場合、治療は親と隔離されると発達障害のある子は精神的に耐えられない場合が多いと思いますので、より慎重な対策が必要かと思えます。

小学生・中学生

(学習面)

- ・ 書くことばかりの大量の課題を少なくしてほしい。オンライン授業をしてほしい。
- ・ ネット配信など、家にいても学べる多様性に配慮した環境をつくることは大事。先生方の負担の軽減をしてほしい。
- ・ 学校から Web に上げられた動画課題を行うことには、大変に困難さがあった。iPad を与えるや否や、奪って逃げ、YouTube を見てしまう。自宅は学習に取り組める緊張感のある場所ではない。
- ・ 学校のオンラインでの課題に関して、科目毎に提出の期限や方法が異なるなど、普段以上に複雑だったので、一覧表を作ってチェックさせるなど、親のサポートが必要だった。
- ・ 去年からすごく熱心に上手に子どもに対応してくださる先生に担任をしていただき、調子も上向いて来たところに休校になってしまった。学習面では、ますます差が開いたと思う。
- ・ 毎年 4 月に担任に成育歴や本人の特性を書面にして渡した上で個人面談を申し込んでいたが、そういった時間が取れないようだったので書面のみ渡して配慮を求めた。
- ・ 高校受験が心配。

(生活面)

- ・ 放課後デイサービスが利用できず、在宅で兄弟喧嘩が増えた。学校再開後はなかなか生活のリズムや気持ちが保てず、不登校に近い状態。
- ・ 不登校なので、デイやフリースクールなど本人を理解してくれる方々との交流や支援が絶たれる状況は、親が全て担うところとなり、大変でした。
- ・ 習い事・デイ・学校と全ての活動が止まり、共働きであったため親も子どもに働きかける事ができなかった。
- ・ 学校がはじまってから慣れるのに時間がかかり、パニックを起こしたり、変なこだわりが強くなったり不安定な状態だった。体力も落ちて、転びやすくなった。
- ・ 見通しが持てない不安から問題行動が増えた。・生活リズムが乱れた(昼夜逆転)。運動不足(太った)。
- ・ 情緒不安定な部分が見られることもあった。・気力の低下がみられた。・イライラして反抗的になった。
- ・ 特にこだわりがある子や、急な予定の変更が難しい子などは、生活リズムを崩さない工夫が必要。このまま不登校になったら、とても不安になりました。
- ・ 不登校のため、普段と変わらない。・さらに外出しなくなった。・ひきこもり、ゲームばかりになった。
- ・ 本人はマスクをつけられない。「息が苦しい」「紐が痛い」など。最近はマスクをつけないと入れない施設が増え、ほとんどどこも入れなくなったので非常に窮屈でストレスのたまる生活をしている。

(良かった点)

- ・ 休校中はゆっくり生活できてリラックスしていた。・集団生活が苦手なので、休校中は逆に落ちついてた。
- ・ 自粛で、癩癩で暴れることも激減し、睡眠リズムが整ったり、良いことだらけでした。やはり集団に入ることが本人にとってつらいということがよく分かりました。
- ・ 通学していた時より落ち着き穏やか安定している。息子にとってどれだけ負担がかかっていたのか、あらためて実感した。
- ・ 家庭で子どもと関わる時間が増え、料理のお手伝いなど生活面で一緒に学ぶができたのは、良かった。

- ・ 閉じこもっていることでストレスも溜まるが、学習面では新しい勉強を模索したり、豊富なオンライン講座に取り組んだり悪くない面もたくさんあった。
- ・ コロナ感染予防や対策について、注意書やポスターや立ち位置の足マークがあり、聞き取りに困難があるのでコロナ以前よりもとても分かり易かった。

高校生・専門学校生

(学習面)

- ・ 書くことに苦手意識が強い息子は、休校中の課題になかなか手がつけられなかった。
- ・ 休校になって、郵送で学習課題が届いて、量がかなり多く、学校が再開するまでに全部終わらすことが出来なかった。
- ・ 休校期間が中学から高校への移行期だったため、中学とも高校とも連絡を取る必要があったが、きめ細かな個別対応で家庭学習支援を提供してもらえた。しかし今後、実習などの就職へ直結する経験を十分に積んで卒業できないなどの状況にならなければ良いが...と懸念している。(特別支援学校)
- ・ 初めてのことが苦手なので、初めてのオンライン授業は大変でした。会ったことも無い人に顔を出すのもマイクをオンにするもの嫌だと言うので、担任に話して対応してくれました。
- ・ 対面でなら理解が促しやすいが、自学自習では、理解、定着が難しい。教科が自学自習での提出で進んでしまっている。解除後、授業のスピードが早く進むなど、生徒への負担が強い。Web 活用をしたものの、その成果の検証は、生徒、保護者、学校各々の意見を反映しないと、今後、LD だけでなく、様々な条件の子供たちに、教育格差が生じるのではないかと、不安を感じている。
- ・ 高校三年生で、進学希望だが、計画していた「オープンキャンパス」への参加がことごとく中止になり、希望大学を決めるのに苦労している。受験生という特殊な時期に、新型コロナの影響を大きく受けることとなり戸惑っている。AO 入試や指定校推薦など、従来の通りのスケジュールを組むことができず、本当に困っている
- ・ 事態の長期化に備えて、一日も早く ICT 教育を進めてもらいたい。休校でも、タブレットなどで家庭で授業が受けられ、先生やクラスメートとも交流できる教育環境を整備してもらいたい。
- ・ Web 授業が本人には合っていたと思う。・通信制なので遅れもなく学習はスムーズにすすんでいる。
- ・ Web(授業支援クラウド)を通して学校から課題が出されていた。相当量のプリントアウトが必要だった。先生たちも慣れていないためか、動画を配信していても見られなかったり、プリントが開けなかったり、いろいろなトラブルがあった。
- ・ 大学受験制度が二転三転している中で休校になった。先行きが見えないため、気力が落ちているようだった。
- ・ コロナを梃子に、一気に ICT の活用を進めようとしているが、高校内に Wi-Fi も整備されていない。授業中に Web を使える子と使えない子という格差を生み出している。

(生活面)

- ・ 丁度学年の変わり目だったことで、先生とうまく連絡がとれずに、すべてのことに意欲低下がみられた。いままで頑張って積み重ねてきたものも崩れていくのを見ているのは親子ともにつらかった。
- ・ 日々状況が変わるので、スケジュール管理がうまくできなくなって、課題の提出日やいつ学校に行くのかが分からず、パニックになっていましたが、クラスのラインで教えてもらっていたようです。
- ・ しっかり家庭学習をこなそうと一生懸命だったが、先の見えない不安感が強く、精神的にはかなり不安定だった。
- ・ 医療系の専門学校生。実習前の感染予防対策の必要性がどこまで理解出来て実行出来てるか心配。
- ・ せっかく新しい生活に入ろうとしていたタイミングでの自粛だったので、友達もいません。学校生活に戻れるか心配です。特にマスクが辛いようです。
- ・ 専門学校の学校説明会や体験授業への参加が躊躇される。アルバイト経験もさせたかったができずにいる。
- ・ 学校に行かなくていい大義名分が出来てしまい、家にひきこもることが多かった。外に出るのが怖かったことも原因のようだった。
- ・ 規則正しい生活が送れず困る。(ひたすら寝る ゲーム三昧)

- ・ 自室でのゲーム時間が増大した。運動不足で体重も増加。体力が落ち心配。

(就活・就労関係)

- ・ 企業実習ができないので、それに代わるものができるかどうか。単位が心配。
- ・ 会社訪問やインターンの予定があったが保留になっている会社がある。
- ・ インターンシップの受入れ減少、学内行事活動、検定試験、国家試験の延長・減少

(良かった点)

- ・ 早期にオンライン授業が始まったので、学校生活においては思ったより不安が少なかった。
- ・ 学校側が、早期に web 学習構築と面談をしてくれて、助かりました。
- ・ 家事を分担してくれ、生活スキルが少し上がった感じがする。
- ・ ルーティン生活でとても安定していた。
- ・ 放課後ディサービスが動いていたのが大きな救いでした。

短大生・大学生

(学習面)

- ・ オンライン授業の回線が途切れたり、大学に行くのか行かないのかハッキリしなかったり、予定変更が頻繁で疲れています。回線の状況で 1 時間の授業の視聴に 2 時間以上かかることもあり電波の良い夜中まで授業を受けてます。さらにパソコンの画面が本のような紙媒体より見難く、リモートのテストの時の見間違いが格段に増えて試験の点数が相対的に悪くなった。
- ・ 大学のオンライン授業への移行、リモート利用の就活支援など、方針が発表されて実施されるまで2ヶ月程かかってしまい、ずっと不安だった。
- ・ パソコン初心者であったため、何をすることも時間がかかり、イライラと不安が大きかった。
- ・ リモートワークは音声割れたり、映像が途切れたりしているようで、理解度が心配。
- ・ 大学に通学していないので意識が低下してしまい、大学生としての学習が修められるのか心配している。オンライン授業を続けるのであれば、授業を充実させてほしい。
- ・ 実習が多い学部なので、このような状況で大丈夫なのか？不安。
- ・ 入学したばかりで全く大学へ行っていない状況。学習の進め方や単位の取り方など基本的なことの説明を受ける機会すらなかったので、非常に戸惑った。

(生活面)

- ・ 学生寮なので、様子を見てやることができず心配。コロナに関しての情報・対策が不十分なのではないかと気がかり。
- ・ アパートでの一人暮らしなので、自宅に戻ることも勧めてみたが、就職活動やアルバイトなどもあり、戻らないで生活する選択を本人がしたが、強い不安感からメンタルダウンした。
- ・ オンライン授業で友人を作るチャンスがなく、教科の情報などを得難い。
- ・ 食事は、学食が利用できなくなったため、コンビニ弁当が多い。移動自粛で、一人暮らしの様子を見に行くことができない。
- ・ 今年入学したので、学生相談室に行く予定だったが、行けていない。大学に連絡したところ、リモートでカウンセラーと親子の三者面談をしてもらうことになった。
- ・ 大学が再開しても、登校できる生活リズムや体力も気力もない。中退することになるのではないかと心配。
- ・ 昼夜逆転。時間管理に問題がある。・生活リズムが崩れた。・睡眠、食生活に乱れが生じた
- ・ 生活リズムが乱れ、本人のモチベーションも下がっていたので、学校に行けるのか心配していた。

(就活・就労関係)

- ・ 予定していたインターン活動が中止となりました。
- ・ 就職活動を始めてまもなく、コロナ禍になり、メンタルダウンしてしまったので、ほとんど手付かずの状態。不眠や鬱に

悩まされ、精神科へ通院。

- ・ 今年度は履修が無いためほとんど在宅で就活しています。合同説明会や面接会がほとんど中止となりオンラインでの就活になりました。実際の職場を見る機会が減ることは不安に感じます。子どもはオンラインでの活動にすぐに慣れ、適応が早かったと感じています。
- ・ 大学の授業については、リモートでも大丈夫なことが分かったが、就活は、企業も学生もいつも通りにいかないことが多く、戸惑いが多い。
- ・ 就職難も不安。例え、仕事に就けたとしても、1年もぶらぶら暮らした人間が働けるのかと非常に不安である。

(良かった点)

- ・ 人と直接会う機会が減り ストレスが軽減し快適そうでした。

就労準備中

(生活面)

- ・ 就労移行支援事業所の通所人数制限のため、半日通所となった。混乱したのか途中で通所ができなくなり、現在は家でゲームをして昼夜逆転している。
- ・ 分散通所になっている。訓練期間が短く、実習等が少なくなった。
- ・ 通っている事業所が休所になってしまい、グループホームからは自粛期間中は実家に帰ってほしいとの要望があり、実家に帰ってきた。本人の自立につながらないのではないかと、親は心配している。
- ・ 家族以外とは会話しにくいような生活になってしまって、いろいろな経験を積む機会が失われていっています。
- ・ 子どもは親の意見を聞かないので、在宅勤務の父親としばしば衝突。家庭内の雰囲気が悪化した。
- ・ 感染したらどうなるか、入院、自宅療養等に本人が耐えられるだろうか、また、親が感染したらどうするか我が家としての対策ができていない。
- ・ 元々不安な性格の為、より一層不安と恐怖で怯えていた。
- ・ ほぼひきこもり。昼夜逆転。・病院以外、外出しない。
- ・ 趣味のボルダリングに行けずストレスが溜まっている。
- ・ 外出の楽しみが減ったためにネット依存が酷くなり、昼夜逆転。情緒不安定。
- ・ コロナへの恐怖から、精神的に混乱し、親に説教をしてくることもあるので、親としても閉塞感を強く感じる。
- ・ 電車を使っただけの余暇活動等ができず、困っていた。
- ・ マスク着用を拒否している

(就活・就労関係)

- ・ 企業訪問がコロナ禍で難しく、ウェブ面接中心に行っている
- ・ 面接・見学が中止・延期となり、特に何もしていませんでした。
- ・ 就活は実習受け入れがなく、滞っている印象。・求職の数がかなり減った印象。
- ・ 今後、障害者雇用が減らないかと心配です。
- ・ このままでは就労移行支援の期限である 2 年が何もしないまま終了してしまう事になりそうでとても不安です。この先何年も不況により就労困難となる事が予想されます。
- ・ コロナ関係で事業所の運営状況が変わり、8 月から B 型へ移行になる。経済状況が悪くなれば、まず初めにこのような事業所への影響が出る。

(良かった点)

- ・ 料理や洗濯を一人でも出来る様に教えてました。

就労中・福祉就労含む

(就労関係)

- ・ コロナの影響で内定が取り消しになった。
- ・ 作業所の受注も減少。
- ・ 契約を更新されず自宅待機、就労再開の目途がたたない不安。
- ・ 全体の仕事が減ったことにより、担当の仕事はなくなり工賃が10分の1以上に減額された。
- ・ 1日おきの出勤になり、お休みの人がいるために多岐にわたる仕事内容への対応が必要でした。
- ・ 週3日出勤で他の日は自宅待機。出勤日は仕事が多く、帰りが遅くなるが多かった。
- ・ 4月5月は自宅待機。その後は1ヶ月程度、隔日勤務。7月に入って通常勤務となった。
- ・ 3月からリモートワークになって在宅勤務中。
- ・ 在宅ワークになり、4月から仕事を始めたばかりで、その都度、環境の変化に慣れるまでが大変だった。
- ・ テレワークが始まった当初は、時間配分がうまく出来ず、会社にいる時より、疲れていた。
- ・ 在宅勤務は過集中になりやすい。
- ・ 清掃業務で、消毒の仕事が増え、疲れて行けない日があったり、体調不良が多くなり心配。
- ・ 勤務先(老人ホーム)にコロナを持ち込んだら大変…というプレッシャーが絶えずあります。
- ・ 自粛なしの職場。逆にコロナの影響で超多忙になった。
- ・ 高校卒業し就労のタイミングでストレスが多く、一般就労で頑張ろうとしていた意欲が崩れる様子を見て、予定通りいかなないと苛立つ課題が大きくなってしまったと感じた。
- ・ 感染防止のため、支援相談員さんが社内に入ることができない。仕事で困ったことへの相談支援も、自粛の中では上手く連絡が会社側とはできない面もあるようです。
- ・ 夏のボーナスは出ましたが、冬と来夏のボーナスは出ないとのこと。
- ・ 弱い立場なので解雇されたり、或いは倒産という最悪の事態もあるかと心配です。
- ・ マスクをつけているので表情がわからない。人によってはききとりにくい。

(生活面)

- ・ 自閉症に対して、急な予定変更や環境変化、ルーティンが崩れることは、大変な事だと思いました。
- ・ 先の見通しがつきにくいと、感情が不安定。
- ・ 1人暮らしゆえに、職場の食堂が閉鎖になった自粛期間はコンビニで済ませていたので、栄養面が心配であった。
- ・ 別居中なので生活面の支援ができていない。
- ・ 職場と家の往復だけの生活で遊び場がないため、ストレスがたまっている。
- ・ 外出できないことからか、携帯電話・ネットで画像検索等をして、トラブルで怖い思いをした。ストレスから身体的症状が出た。
- ・ 本格的なひとり暮らしを始めましたが、生活支援センターからの生活支援がうまくスタートしきらないうちにコロナ騒ぎが起きて、ほとんど生活支援のないまま8か月経ってしまいました。
- ・ 鉄道イベントやカラオケなど自分の趣味が思うようにできず、ストレスが溜まっている。
- ・ 好きな旅行(都市部)に行けなくて、ストレスが溜まっている。・参加したいイベントの中止が相次ぎ、イライラしていた。
- ・ ストレス発散の機会がなくなっていて、本人の精神バランスが崩れるのではないかと心配。
- ・ コロナへ神経質になったせいか、家族以外の来訪(修理業者等)に対して、異常なくらい徹底的な感染防止策(室内をビニールで覆う等)を取っていた。
- ・ 今一つ、コロナウイルスをどこか他の地域での話ととらえており、自分も感染する可能性があることを認識して、生活を送ってほしいと思う。

- ・ 感染のしくみ等を理解できているのか不安。「手洗いの回数を増やさない」は無理。その時その時に指示するしかない。
- ・ イベントなどに出かけられない事を納得するまでが大変だった。理解したら、今度は感染した場合の不安がのしかかっている。
- ・ 体調不良時、病院に行くように指示された。保健所に電話しても受け付けて貰えず悩みぬいた。幸い高熱に至らず回復したが、復帰にあたっても病院で証明して貰う様に指示され、行く病院探しにも困ったが、そういう証明は出せないと言われ、色々と混乱の日々だった。
- ・ 自粛中に風邪で高熱が出て、朝、親がかかりつけの医院に電話すると保健所に相談して欲しいと言われ、なかなかつながらない保健所の人にコロナの症状では無いと言われ、やっと診察して貰ったのは夜でした。
- ・ このまま何か月も仕事以外の外出をしない状況が続くと、ますます会話が苦手になって、友人と関わるのも面倒になって、社会性が無くなっていくんじゃないかと心配です。
- ・ 行動範囲がますます狭くなった。
- ・ 生活のリズムを保ちつつ、仕事への積極的な意欲を持ち続けられるよう家庭ではいろいろな手伝いをしてもらった。
- ・ 感染症が拡大し、本人たちは正しい情報をどんなサイトから得たのか、ネット上の不確かな情報に彼らも振り回されたりしなかったのか、そして情報をもとに何か行動したことがあれば知りたい。
- ・ 通勤電車や勤務中にマスクを着用していない人がいると、世間のルールを守れない人と判断して、子どもが強いストレスを感じています。

(良かった点)

- ・ 在宅勤務は人との接触や満員電車の通勤のストレスがなく、仕事に集中できるため、心穏やかに落ち着いていた。
- ・ 職場の方が、とても心配して下さり、普段は親とは直接連絡とらないが、メールで詳細を送って下さったり、勤務配置の書類に、本人が分かりやすく色分けして下さったり配慮していただいた。
- ・ もともと人との接触や活動量や情報量が多いと適応できないので、どちらかという快適に過ごせていた。
- ・ 家事を覚えてくれて、自粛解除後も休みの日は継続して手伝うようになってくれて助かっている。
- ・ 家の工事、修理など得意分野の仕事を見つけてやっていた。
- ・ 電車バスを使っただけの通勤だが、宣言が出ている間は親の車で送迎していた。そのおかげで日常より会話が増した。
- ・ 勤務先では給与の保障もあったので、勤務日数が減っても給与はあまり変わらなかったようでありがたかった。